

民主化闘争情報

No. 833
2011年9月21日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

本年度に入って日貨労から6名の組織拡大を果たしている貨物鉄産労が、この度、東海地区本部であらたな仲間の加入を勝ちとった。貨物鉄産労の組織拡大の勢いが、再び加速してきた。

貨物鉄産労に日貨労から26歳の青年が加入！ JR貨物の将来展望をJR連合・貨物鉄産労と共に切り拓こう！

今回、日貨労と決別し、貨物鉄産労に加入したのは四日市駅に勤務する26歳の青年だ。貨物鉄産労は、2011年度に入って、4月に九州地区本部で2名、5月に東海地区本部で1名、そして6月7日には九州地区本部で2名、東海地区本部で1名の組織拡大を果たしている。今回の加入で、本年度7人目の組織拡大となるが、20歳台が5人、30歳台が2人という、まさにJR貨物の将来を担う青年達が、日貨労に見切りをつけ、貨物鉄産労を選択したことになる。

貨物鉄産労東海地区本部は、「JR貨物に働く全ての皆さん！JR貨物の発展と私たちの雇用・労働条件を守るため、JR連合・貨物鉄産労に対する期待が高まっています。来年4月には、JR貨物発足25年を迎えます。私たちの雇用を守り、労働条件を改善していくために、『貨物民主化・貨物改革』に参加してください」と呼びかけている。

現在、JR連合と貨物鉄産労は、「震災被害補助を勝ち取るための第三次補正予算対応」と、本年度末で期限切れを迎える「税制特例等の継続に向けた取り組み」を精力的に行っている。厳しい状況に置かれている貨物会社を再建できるのは、JR連合・貨物鉄産労しかないことは明らかである。

貨物鉄産労本部は、「全国各地において、『総オルグ行動』を展開し、多くの仲間を迎えよう！」と檄を飛ばしている。

『週刊文春』も山岡国家公安委員長の「黒い履歴」を追及！

9月2日に発足した野田内閣で、山岡賢次衆議院議員が国家公安委員長に就任した。革マル派を監視する立場にある国家公安委員長に、革マル派が浸透するJR総連の推薦議員懇談会代表世話人を務める山岡議員が就任したことに対し、『週刊新潮』が早速追及していることは既報のとおりだが、『週刊文春』(9月15日号)も「山岡国家公安委員長の『黒い履歴』」と題して、以下の記事を掲載している。同問題が、今後も厳しく指弾されることは必至だ。

…昨年5月、当時の鳩山内閣では次のような答弁を閣議決定している。「革マル派は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、JR総連及びJR東労組内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」

この閣議決定に噛み付いたのが山岡氏だった。同年6月に開催されたJR東労組定期大会に招待された山岡氏はこう演説をしたのだ。「(閣議決定について)これはですね、当然JR(総連)さんへの攻撃であると同時にですね、私への攻撃でもあるわけでございます。(中略)この対応についても内閣に対して強く抗議を申し上げました」

なぜ山岡氏はJR総連を擁護するのか。「選挙に弱く有力なスポンサーがない山岡氏にとって、JR総連は人も金も出せる大事な後援者なのです。JR総連の武井政治委員長とは昵懇の仲でゴルフ仲間でもある。昨年の参院選でも、山岡氏は武井氏の要請を受けてJR総連の組織内候補だった田城郁氏の公認と選挙対策に奔走しています」(公安関係者)

山岡氏の資金集めパーティーである「賢友セミナー」でもJR総連は大ロスポンサーだ。08年の出席者名簿によると、「JR総連」と「東労組」、そしてJR総連系列労組である「JR貨物労組」名義で、合計54万円分ものパーティー券を購入している。

…こんな人物が日本警察のトップに就いたのだ。問題のある業界や労組と癒着し、臆面もなく圧力をかける。山岡氏は野田首相が胸を張る「適材適所」というには、あまりにも不適格な人物ではないか。